

さいたま市地球温暖化対策地域協議会
令和4年度第1回運営委員会 議事録

日 程：令和4年5月18日（水）10：00～12：00

場 所：西会議棟2階 第1会議室

出席者；小川優、野代幸一、齊藤千絵、日原順二、後藤正喜（秋元氏の代理出席）、
三宅和幸、高村裕美、
〔事務局〕盛月・武藤・畠田・島田（さいたま市）

※順不同、敬称略

□ 挨拶

- ・事務局より、年度変わりの体制変更を説明
- ・日原前代表より挨拶
- ・小川新代表より挨拶
- ・野代新副代表より挨拶
- ・齊藤新副代表より挨拶

□ 議題の検討、協議

（1）昨年度事業の振り返りについて【報告】

- ・事務局より、資料のとおり報告

（2）SNSを活用した写真コンテストについて【検討】

- ・事務局より、資料のとおり説明し、事前に意見を求めた検討事項1～4について協議
- ・以下に詳細を記載

【検討事項1】キャンペーン名について

【意見内容】

- ・キャンペーン名ではなく、「〇〇コンテスト」「〇〇グランプリ」の方が相応しいのでは。
- ・「サステナブル」という言葉に「エコ」は含まれているのでは。
- ・「サスエコ」という言葉は定着していないため、世間に認知されている「SDGs」を名称にした方が良いのでは。
- ・サスエコはあくまで省略の名称で、きちんとサステナブルという言葉を使ったほうが良いのでは。

【当日議論】

- ・民間企業でも類似のものが「キャンペーン」という名称で行われており、より多くの方に事業を知ってもらうために事務局案では「キャンペーン」という名称を考えている。（事務

局)

- ・単にサステナブルという用語だけでは、なじみが薄いこと、また、SDGs×環境というイメージが伝わるよう事務局案では「サスエコ」という名称を提案している。(事務局)
- ・「サスエコ」は今回のキャンペーンに向けて新設したものであるため毎年のキャンペーンを通して今後定着を図っていきたいと考えている。また、SDGsには環境問題以外にも含まれることから、事務局案では「さいたま市サスエコキャンペーン」を提案している。(事務局)
- ・キャンペーン名としては馴染みやすいよう略称した「サスエコ」を使用し、チラシ内の説明でサステナブルとは何かというところを盛り込もうと思っている。(事務局)
- ・「サスエコ」を今後、キャンペーンを通して、定着させていこうという事を考慮し、事務局案に賛成とする。(日原)
- ・チラシにサステナブルの説明があるならばよいと思う。(小川)

【まとめ】

- ・反対意見が出なかったため、「キャンペーン」及び「サスエコ」を使用していく。

【検討事項2】 投稿テーマについて

【意見内容】

- ・通勤・通学に絞るのは、絞り過ぎのような気がするので、「移動」や「交通」にするのは？
- ・部門を細かくすると離脱に繋がりそうなので、全体で募集して、評価をする際にこちらで部門を確定したらどうか？
- ・5部門のほかに6番目の部門として「その他」部門を加えてはどうか？

【当日議論】

- ・5部門は多いと思った。チラシの情報量も多くなり、ごちゃごちゃしてしまうのではないかと。3つくらいが良いと思う。(齊藤)
- ・外出先でエコと移動は1つにまとめられると思う。(小川)
- ・5部門は多いと思う。家庭、ビジネス、学校などでまとめるとよいと思う。3つ多くて4つが妥当だと思う。また、エコ活動を複数で行っている投稿をする時にエコ活動としてなのか団体として投稿するのか区別がつかないと思う。(後藤)
- ・屋内、屋外、団体の3つでテーマとするのが良いのではと思った。(日原)
- ・より、キャンペーン風に言うと「おうちでエコ」、「おそとでエコ」、「団体部門」が良いと思う。(齊藤)
- ・団体のイメージであるが、表彰だけでよいのか？賞品はないのか。(齊藤)
- ・金品を企業側が受け取る際に社内的に問題あるのか。イメージが良くないのかなど考慮し、団体部門は表彰状のみと考えている。(事務局)
- ・企業の社内的な調整を考えると賞品ではなく表彰状の方が望ましいと思う。(小川)
- ・団体投稿のアカウントはどう想定しているか。(後藤)
- ・もちろん団体のアカウントがあれば、それで、なくても例えば広報担当の方のアカウント

など個人のアカウントからでも受け付ける想定でいた。(事務局)

・企業と個人の区別が難しい。組合はグループとして活動するが、その企業を代表して投稿というのは違うと思うので、企業単位ではなくグループ単位が望ましいと思う。(三宅)

・投稿する際の基準として、団体の定義はチラシやHPにしっかり落とし込む必要があると思う。(小川)

・若者の投稿を促すために高校生のクラブ団体なども含めるとよいと思う。(高村)

【まとめ】

・テーマは「家の中のエコ」、「外でのエコ」、「団体」の3つにし、それぞれの適した名称を検討するとともに団体の投稿基準を明確にし、チラシ作成をすすめる。意見があれば、随時、事務局に伝えることとなった。

【検討事項3】 賞品等について

【意見内容】

・賞品合計10万円にしたらどうか。

・エコ団体の表彰は1団体か？また表彰状の授与等はどのように行うか。

・審査員特別賞を選定する委員はどのように想定しているか。

【当日議論】

・ダブルチャンス賞は500円とのことであるが、500円ではお弁当も買えないため、少なくとも1,000円は必要だと思う。(野代)

・テーマ数が減少することでテーマ賞が無くなるので、その削減した部分を使い、ダブルチャンス賞を1,000円に増額するよう構成する。(事務局)

・学校へのキャンペーン周知について、児童、生徒も含めた全体に周知するイメージなのか。

・SNSを促す対象として、児童、生徒にはよろしくないと思われるので、学校単位で行う想定。(事務局)

・WEB広告を行うなら、10代などを設定し、より若者に届きやすいようにした方がよいと思う。(齊藤)

・やはり、学校に周知するなら投稿は高校生以上であると思うので、学校単位での周知が望ましいと思う。(高村)

・何校か話しやすいところに交渉してみて、学校への周知を探っていく予定。(事務局)

・表彰は1団体とのことだが、応募がたくさんあり、性質が違うものが競合すると1つに絞れないと思う。例えば、企業で1つ、学校で1つなど表彰先は複数あってもよいと思う。(小川)

・以前、行っていたエコ川柳ではこどもの応募が多く、SDGsに熱心な学校もあるため、そういうところは周知したほうが良いと思う。(後藤)

・学校の周知は学校単位(先生)で行い、そこから先は先生が保護者に周知するかクラス単位で投稿するのかわつなげられれば良いと思う。(事務局)

- ・団体からの虚偽の投稿をどのように判断するのか。(後藤)
- ・当選の連絡など、インスタグラムのDMより行うので、やりとりを行う際に虚偽であれば判明するのではと思う。(事務局)

【まとめ】

- ・賞品の総額は事務局案のとおりとし、テーマ賞の削減とダブルチャンス賞を1,000円に増額するよう構成する。また、学校への周知は学校単位(先生)で行う。

【検討事項4】採点方法について

【意見内容】

- ・一番肝心の「環境にやさしいか」「環境配慮」についての項目が抜けているという指摘があったかと思うので、この点を他の点より加点して入れた方が良いと思います。
- ・「継続性」と「取り組みやすさ」を1つのまとめると良いと思う。
- ・「写真のデザイン」なかなか優劣がつきにくい。
- ・審査員が評価しやすいようにフォーマットを見やすくしてほしい。
- ・従来の5項目各5点ずつ計25点ではなく、6番目に「全体評価ポイント」5点を入れて計30点満点とするのはどうか。

【当日議論】

- ・5点法で採点が難しかった、写真が粗いため、確認するのが難しかった。(野代)
- ・採点のフォーマットについて、昨年度の課題を踏まえ、見やすくできるよう検討していく。(事務局)
- ・環境にどう影響しているのかという点がキャンペーンの一番大事な所だと思うが、去年の投稿は広義にはエコだと思うが、結果的にCO2削減につながっていない投稿などもあり、採点するのもややもやした。(高村)
- ・CO2がどう削減しているのか、という点が分かれば点数はつけやすいと思うが、専門家ではないため、結局は主観になってしまう。(後藤)
- ・採点する際にある程度、主観的になるのはしょうがないかと思う。投稿内容に共感できるかという点が大事だと思う。(三宅)
- ・一度、委員の中で1次審査し、その後に運営委員会で、精査すれば、委員の中で迷わずに済むのかなと思う。(齊藤)

【まとめ】

- ・採点のフォーマットは見やすくなるよう検討する。
- ・採点はまず、委員ごとに現状の項目の5点で1次審査をしてもらい、第2回運営委員会にて審査(決定)する。第2回運営委員会は現行の9月7では厳しいため、日程を再調整し、お知らせする。

(3) 地域の企業取組紹介について【検討】

- ・事務局より、資料のとおり説明し、事前に意見を求めた検討事項1～2について協議
- ・以下に詳細を記載

【検討事項1】 企業以外の団体の取組を紹介することについて

【意見内容】

- ・取り組みが営利を目的としていなければ良いと思う。

【当日議論】

- ・学校の取組がなかなかフューチャーされないため、今回の紹介で取り上げるのが良いと思っている。(齊藤)
- ・イベント会社ということであるが、投稿の対象としてはイベント会社ではなくイベントを主催しているところが筋だと思う。(後藤)

【まとめ】

- ・企業に絞らず、企業以外も含めた「団体」を対象とすることとなった。
- ・イベント会社は対象に含めて良いと思うが、優先度は低いため、学校などを優先的に紹介する。

【検討事項2】 取材企業の選定について

【意見内容】

- ・コンテスト応募以外の選定について、環境やSDGsに熱心に取り組んでいる優良企業や団体（できれば市内に本社や本部を置く企業・団体）を自薦他薦で募集してみたらどうか。
- ・応募のあった企業からの選定を基本に、取り組みの規模感や先進性などから選定が良いと思う。
- ・写真コンテストの団体賞受賞者を第一候補としてはいかがでしょう？
- ・写真コンテスト応募の際、取組紹介がある旨をPRしては？

【当日議論】

- ・取り組み紹介はどのように行われるのか。(高村)
- ・地域協のHPに掲載するイメージ。(事務局)
- ・学校によって、環境意識は温度差があるのが現状。頑張っているところはフューチャーしてあげたいと思う。(高村)
- ・学校の情報などは事務局に随時共有する。(齊藤)

【まとめ】

- ・キャンペーンの受賞団体を第1候補とする。
- ・紹介は1者によらず、2者以上も検討する。

(4) 事務局からの伝達事項（スケジュール等）【報告】

- ・今年度のスケジュール及び環境フォーラムについて、資料のとおり説明
- ・以下意見を記載。

【意見内容】

- ・第1回全体会議は今後報告があるのか。(日原)
- ・後日、メールなどで報告させてもらう。(事務局)
- ・過去に環境フォーラムで川柳の表彰式など行ったと思うが、今回はどうするのか。(三宅)
- ・次回の運営委員会までに内容を検討し、委員内で共有する。(事務局)
- ・親子交通安全フェスティバルについて、10月のどこかの日曜日で実施予定である。詳細が判明次第、委員内で共有する。(齊藤)

(5) その他

- ・特になし。

以上